

# ひと昔前のことが、存知でなかったら……

アツと驚かれるに違いありません。

今秋の関西合唱コンクール〈一般の部〉は、出演グループ三十団体という物凄さでした。

ここまでなら別にどうということもありません。問題はそれからなのです。

ひと昔前なら、質量ともにリードするのが男声合唱団、つまり男性上位のはずでした。しかるに、

今年は、半数以上が何と女声コーラス。男声チームは、大阪メンズ・コーラスたったの一つ！

混声合唱団も男あつめには、かなり苦勞しているとか……。

女声が増え、男声が減ったのは、嫌な女が増え、だらしのない男が増えたのに、これは絶対に間違いないという結論に達したくなります。実際、常時動いている男声合唱団は、殆んど無くなりました。当然、起ってくるのがコーラス・ボーイ不足。プロの男声合唱団が皆無である事情から、何かあれば引張り出されるのが大阪メンズ・コーラスという実情。

今シーズンのある時期は、十五日間で七回の本番。加えてリハーサルというヒドさ。しかも、その真最中にコンクールをはさんで、大阪、姫路、豊中、和歌山、神戸、吹田、高槻。曲目もバラバラ。衣裳、かつら、メイキヤップ、演技……。メンバーそれぞれは、勤め先、家族どもから冷い目で見られ、音楽関係者すらも「OMCはアルバイトで忙しい」なんぞと無知まる出しでおっしゃるので。 「いやな渡世だなア」と言いながら今年もまたまたリサイタル。

# でも、このひと月の間だけは……

ほかのことを何もせずに、リサイタルにおみえの方がたに、ちよつとだけでも楽しんでいただこうとレパートリー作りに、はげめました。勿論「練習の成果を発表」するのでもなく「日頃の實力を發揮」するのでもありません。おことわりしておかなければならないのは、ボクたちが、ボクたちの歌いたい歌だけを舌足らずながら二時間、歌うだけです。五百円の入場料に見合うかどうかは、殆んど自信がありません。

まあ、ご想像より、ちよつとは楽な気分でおつき合いいただけると思いますし、合唱人間たちのセンスの遅さだけは必死に避けてゆくつもりでいます。少なくとも七〇パーセント以上はご存知のメロデーなのですから……。

# 申し遅れましたが……

これは音楽会の宣伝ちらしです。

本当は五百円づつお払いして、お酒でも差し上げ、お出ましをお願いすべきところなのですが、懸命のアルバイトにもかかわらず大変な貧乏です。会場費や印刷代、それにちよつとした雑費のために先程の入場料金をやつぱりいただかざるを得ません。

大阪・四ツ橋・厚生年金会館中ホールで、十二月二十一日〈土〉六時半開演です。

「そうらん節」「ヴオルガの舟唄」「錨を上げて」「南太平洋」「美しく青きドナウ」などなど日本、アメリカ、ロシア、スペイン、オーストリアほかの海、川、舟乗りの歌ばかりを二十数曲あつめました。クリスマスも近いので、そんな曲もひとつやふたつと思つています。

指揮は、林節と筒井 彰、ピアノは寺本有希、合唱は、もちろん、あいつたち大阪メンズ・コーラスのメンメンです。